

エドウィン・M・リー サンフランシスコ市長 さま

私たち日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークは、日本軍「慰安婦」問題の解決を目指して2009年から関西地域で、アジア各国・オランダの被害女性や各国支援団体・個人とも連携しながら取り組みを進めています。

私たちは、日系、韓国系、中国系など様々な立場の人々も含めたサンフランシスコ（SF）市民のみなさまが、歴史を記憶し、日本軍「慰安婦」問題の解決を願い、さらに女性への暴力根絶をめざして「慰安婦」記念碑を設置されたことに深い感銘を受けています。

SF市議会においても、碑の設置を満場一致で採択する等、歴史の事実を踏まえて市民の意思や行動を尊重し、人権尊重の理念に従って対応されてきたことに心より敬意を表するものです。またリー市長も、度重なる大阪市の吉村市長からの書簡に対して、記念碑が「被害者たちを尊ぶ」という意図を持って建てられたこと、SF市民らの願いがなにであり、それに責任を負うことが市長としての義務であるという内容の返信を書かれており、大変敬意を感じております。

しかし、大阪市の吉村市長は、SF市の「慰安婦」記念碑の設置を「日本バッシングである」とし、「日韓合意の精神を傷つけるもの」と主張しており、大変恥ずべきことです。昨年3月、国連女性差別撤廃委員会が出した勧告でも、「合意」について「被害者中心のアプローチを十分に取らなかったことは遺憾」と批判しています。「今まで多数の委員会から出されている勧告を実施してこなかったことと、遑及適用されないと主張していることは遺憾」とも述べ、日本政府に対して、今までになく大変厳しい内容の勧告になっています。

11月7日、トランプ大統領は韓国で「慰安婦」被害者のイ・ヨンスハルモニと会われ、世界の注視のもとでハグされました。日本政府はこのことで韓国政府に抗議しましたが、私たちは、韓国とアメリカの市民がこの問題の解決を求めているというメッセージだと理解しています。

吉村市長も日本政府も、「慰安婦」問題に真摯に向き合い、現在もなお私たちの国で多発している女性への性暴力等の人権侵害をなくすための努力をすべきです。私たちは、国際社会の声に敬意を表しつつ、この「慰安婦」問題への解決を日本政府に求める活動を、引き続き行ないます。

しかし、吉村市長は今に至っても市民の声に耳を傾けることなく、自らの主張を通すためにSF市に出かけてリー市長と会談するとまで言い出しています。恥ずべき事態が進行するばかりなので、私たちも黙っているわけにはいきません。リー市長に、あらためて要望書をお送りし、日本の市民の声を伝えることを決意しました。私たちは、これまでも吉村市長と大阪市に対して抗議文を送り、また市民への広報活動を続けています。

現在、大阪市民がSF市との都市間交流や市民の友好関係が続けられなくなることを悲しんでいる声が、新聞でも報じられています。大阪市議会は今年5月と9月、吉村市長が所属する与党が提出したSF市に「慰安婦」記念碑設置の再検討を求める決議案を、二度とも否決しています。

どうぞ、吉村市長の圧力や脅かしによってSF市民と議会の思いが踏みにじられることがないように、60年の歴史を持つ姉妹都市関係が続き、平和と人権促進のために市民がこれからも手を携えて進むことができますよう、リー市長に切にお願いいたします。

SF市の、今後のご発展をお祈り申し上げます。

2017年11月 日

日本軍「慰安婦」問題。関西ネットワーク